東京学芸大学リポジトリ
Tokyo Gakugei University Repository

「当て字」の現代用法について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2012-05-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 白勢,彩子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/125467

東京学芸大学紀要　人文社会科学系Ⅰ　**63**: 103－108，2012.

「当て字」の現代用法について

白　勢　彩　子＊

日本語・日本文学研究講座

（2011年８月31日受理）

要　旨

当て字が，現代漫画においてどのように用いられているかについて調べた。調査対象の資料は，2011年４月から６月の３ヶ月間に発行された漫画９誌（少年誌２誌，青年誌２誌，少女誌３誌，女性誌２誌）である。収集した資料を概観したところ，主に７種の用法があると捉えられた：１.口語の読みを示す，２.外来語の読みを示す，３.英語の略表記の読みを示す，４.スポーツ用語，５.代名詞，６.言い換え表現，７.作品固有の表現である。これらの用法から，同一の語に対し書き言葉と話し言葉が異なる場合に，語の読みと書き言葉の語形を同期させて示す，同義または異義の関係にある読みと語を同時に示すことにより意味を明確化，あるいは拡充するために当て字が用いられていることが考えられた。

キーワード：当て字，読み，振り仮名，用法，分類

１．はじめに

「当て字」とは，「本来的，一般的な字音や字訓，字義に従わずに語の表記が行なわれることがある。語から見れば，その成り立ち，意味や発音にそぐわない漢字が用いられることもある。そういう表記・用法を当て字とよぶ。」[1] とある。

上記は漢字に言及したものであるが，現代では，漢字だけでなく，平仮名，片仮名や英数字，記号にも「当て字」の用法が見られる。例えば，「規則（ルール）」，「4649（よろしく）」などがある。以下，文献［1］に基づくと，前者は，意味的な類似に基づいた用法で，表意的な表現といえる。一方，後者は音の類似に基づいた用法で，表音的な表現といえる。上記の他，「弗（ドル）」のように，形態の類似によるものも指摘されている。また，語種・文字種の観点から見ると，「規則（ルール）」は漢語と外来語，「4649（よろしく）」は数字と和語の組み合わせと，作製方法が異なる。このように，用法や成り立ちには複数の型があるようだ。

現在，漫画やインターネットなどの，現代的でかつ，特に若年の世代にとって身近なメディアにおいて，多くの当て字の使用例が見られている［2］。しかしながら，いわゆる「サブカルチャー」の範囲にある存在のためか，漫画などの当て字研究は数が少なく，なぜ多用されるかなどの点は明らかでない。文献［3］は，当て字が用いられるようになった経緯を論じ，漫画に出現する当て字がどのような効果をもたらしているかを考察して，「「現代の言文一致体」の試みのひとつとして，会話中の省略及び状況説明の省略を「ルビ付き活字」で補うことによって，意味伝達を可能にすることが行なわれた」と指摘している。興味深い指摘ではあるものの，この文献中に扱われた当て字例は多くなく，どのような範囲でどのような使われ方があるかなど，具体的な点は明確でない。そこで，本稿では，現代漫画に出現する当て字を集め，分類して性質を明らかとすることを目的に，現行の漫画に現れる当て字の調査を行なう。なお，本稿は資料を記述的に観察するものであり，当て字の使用について，是非を問

＊　東京学芸大学（184-8501　小金井市貫井北町 4-1-1）

うものではない。

２．資料

2011年４月から６月の３ヶ月間に発行された漫画９誌を調査した。いわゆる少年誌２誌（少年ジャンプ，少年マガジン），青年誌２誌（ヤングマガジン，ビッグコミックオリジナル），少女誌３誌（ちゃお，りぼん，花とゆめ），女性誌２誌（KISS，コーラス）である。これらは，社団法人日本雑誌協会ウェブサイトに公表された，2011年１月～３月の印刷部数にて上位の雑誌であることから対象とした。

これらの資料において，語とルビとの関係が，本来的な組合せとは異なるものを抽出した。但し，ルビが人名，地名，建物名などの固有名詞の読みを示すものは対象外とした。なお，少年誌，少女誌ではすべての漢字にルビが付され，青年誌，女性誌では漢字のルビは一部にのみ付されている。対象の資料から，延べ1,761，異なり1,026の当て字の用例が得られた。

３．分析

３．１　主な用法の整理

収集した資料を概観したところ，対象とした漫画の当て字には，主に以下の用法があると捉えられた。例とともに示す。例については，できる限り，少年・少女・青年・女性の各誌それぞれから１例ずつ挙げるようにした。

① 口語の読みを示す

してないってことでしょう（し て ねって こ ど だ べ）
（「釣りバカ日誌」ビッグコミックオリジナル，38巻14号，p.64）

悪りィ（わ）
（「BLEACH」少年ジャンプ，44巻18号，p.317）

悪りー（わ）
（「婚圧ファイター」コーラス，18巻７号，p.327）

早ぇ（はえ）
（「いぬまるだしっ」少年ジャンプ，44巻17号，p.203）

弟（おとーと）
（「天使1/2の方程式」花とゆめ，38巻12号，p.77）

以上は，方言や，音の短縮・変化など，日常の会話で頻繁に見られる音の変異形を読みで表した例といえる。「してないってことでしょう（し て ねって こ ど だ べ）」は，「津軽電鉄の社長」という登場人物の台詞である。主人公を含む主な登場人物が東北へ釣り旅行に出かけているという設定で，東北在住の登場人物は土地の言葉を話すように描かれている。この際，ルビに方言形，語に標準語形を示して表現している。

「悪りィ（わ）」については，「悪（わる）」とルビを振るのが辞書形である。しかし，この例では，「悪」には「わ」のみのルビである。口語の発音，特に若い世代では，男性を中心に，「るい /rui/」の連母音が融合して「/rii/」となった発音が聞かれ，俗語として用いられている。漢字部の音が変化しているため，変化音から送り仮名とし，漢字には「わ」だけが振られるようになっている。「悪」の字に続く送り仮名も含めて見ると，「悪ィ（わり）」，「悪い（わり）」など他種の表記があり，作品や場面，登場人物より，様々な例が確認された。

② 外来語の読みを示す

質（クオリティ）
（「黒子のバスケ」少年ジャンプ，44巻20号，p.382）

挑戦（チャレンジ）
（「小日向海流」ヤングマガジン，32巻19号，p.162）

開始（スタート）
（「ナゾトキ姫は名探偵」ちゃお，35巻９号，p.358）

英国（グレートブリテン）
（「小煌女」KISS，20巻11号，p.58）

他に，「１（ワン）」，「２（ツー）」など，数字の英語読みを示すものも多く見られた。これらの例では，ルビは外来語，語は漢語あるいは数字記号であって，異なる語種で，同義ないし類似の語義関係にある二者が用いられてい

る。語種が異なる同義の語を重ねることでより意味を明確・特定化しているのではないかと考えられる。

上記は読みであるルビに外来語表記が用いられているが，次のように，外来語に漢語，和語のルビを振った例も，わずかながら見られた。

天使のささやき
エンジェル・ウィスパー
（「斎藤楠雄の難」少年ジャンプ，44巻19号，p.233）

多数の用例とは異なって，読みに非・外来語を用いることにより，どのような効果がもたらされているのかについては，文脈からは判断しかねた。和語，漢語，外来語のどれをどのように用いるかによる相違については現状では不明であり，今後の課題としたい。この種の用例を多く集めることや，印象評価の調査などによって明らかとなるのではないかと考えている。

③ 英語の略表記の読みを示す

ゴールキーパー
G K
（「エリアの騎士」少年マガジン，53巻19号，p.198）

ジャンクション
J C T
（「C 1ランナー」ヤングマガジン，32巻27号，p.230）

ホームルーム
H・R
（「今日も明日も」花とゆめ，38巻10号，p.308）

ゲイ
G
（「ボクは東京でリアル」コーラス，18巻7号，p.126）

略表記の読みの当て字は多く観察され，生産的な例といえる。こうした当て字が出現する理由については，以下のように考えられる。例えば，「G K（ゴールキーパー）」は，文字表記としては「GK」とすることが一般的であるようで，以下のように，新聞各紙のスポーツ欄では，「MF」「GK」など，英略語で記述されている。

同サッカー場は、MF宮間あや、GK福元美穂の両選手が所属する「岡山湯郷ベル」の本拠地。
（朝日新聞，2011年8月23日）

しかしながら，声に出して読む際には，「MF」を「エムエフ」，「GK」を「ジーケー」と発音することはなく，「ミッドフィルダー」，「ゴールキーパー」と言うことが一般的であろう。つまり，これらにおいては書き言葉と話し言葉が一致していない。同義の異表現を統一して表現するために，英略語にルビを振ることが用いられるのではないかと考えられる。

④ スポーツ用語

ワンオンワン
1対1
（「黒子のバスケ」少年ジャンプ，44巻20号，p.385）

ラブ
0
（「Baby Steps」少年マガジン，53巻19号，p.175）

イエローカード
警告
（「DOIS SOL」少年ジャンプ，44巻17号，p.330）

ホイッスル
笛
（「コラソン」ヤングマガジン，32巻28号，p.352）

スポーツ用語の当て字のほとんどが，これまでに述べた，外来語または英略語の読みを表示する，もしくは，後述する言い換え表現のいずれかに該当し，用法が混在している。改めて項を設けることは適切でないかもしれないが，スポーツ用語に当て字が頻出していることから，ここでは別項として明記しておきたい。

スポーツ用語に頻出することについては，以下のように考えられる。スポーツ用語は，スポーツ種に特有の語で，外来語として新規に入り，定着していくことが多い。種目に特有であったり新語であったりする語に対し，在来の語をあわせて表記することにより，意味をわかりやすく伝えているのではないだろうか。

⑤ 代名詞

あいつ
高木
（「Baby Steps」少年マガジン，53巻23号，

p.438）

10番（こいつ）
（「コラソン」ヤングマガジン，32巻 27号，p.315）

旧校舎（ここ）
（「俺様ティーチャー」花とゆめ，38巻 6 号，p.283）

喫煙所（あそこ）
（「新 Good Job」KISS，20巻 9 号，p.230）

人称代名詞，指示代名詞の読みの当て字は，作品や雑誌種を問わず，広く用例が観察された。安定した用法といえる。「あいつ」や「ここ」などの語は，代名詞という性質上，人物や場所を明らかには指示しない表現である。普通名詞を示すことによって，指し示す事物を特定しようとする用法といえる。

⑥ 言い換え表現

仕事（スカウト）
（「新宿スワン」ヤングマガジン，32巻 25号，p.34）

目撃情報（タレコミ）
（「アカポリ」ヤングマガジン，32巻28号，p.153）

大財閥（ケタチガイ）
（「嵐とドクター」花とゆめ，38巻 6 号，p.411）

実家（八王子）
（「東京アリス」KISS，20巻 9 号，p.143）

「目撃情報（タレコミ）」のように，専門的な用語を示すものもあるが，「大財閥（ケタチガイ）」，「実家（八王子）」のように，文脈や作品に依存して用いられる例の方が多く観察された。専門用語の場合，読みと語は同義だが，文脈依存の当て字では，読みと語に語義関係などなく，全くの他語であって，本来は関係がない語同士である例が多く見られた。伝達内容が二重に示された用法で，相互に意味を補う役割を果たしていると考えられる。

上記の例では，「大財閥（ケタチガイ）」は「桁違いな大財閥」，「実家（八王子）」は「八王子にある実家」のように修飾関係として言い換えが可能であり，読みは語に対してより詳細な情報を示しているといえる。

これらに対し，次のような例も少ないながら確認された。

博士（おっさん）
（「エア・ギア」少年マガジン，53巻 22号，p.156）

この例において，読みの「おっさん」は必ずしも「博士」の詳細な情報を示しているわけではなく，「おっさん」と「博士」が同義の語関係にあるとも言い難い。ある種の言い換え表現であると現段階では捉えて，ここに示す。

⑦ 作品固有の表現

燭の道（アポロン・ロード）
（「エア・ギア」少年マガジン，53巻 28号，p.424）

魔煙草（イビルシガレット）
（「保健室の死神」少年ジャンプ，44 巻20号，p.470）

東の楽園（エデン）
（「magico」少年ジャンプ，44巻 15号，p.106）

其はただ焼き尽くす者（シント・ソールム・インケンデンテース）
（「ネギま！」少年マガジン，53巻 30号，p.166）

懲罰棟（プリズン）
（「監獄学園」ヤングマガジン，32巻 19号，p.93）

今回の調査では，ある特定の作品中でしか用いられない当て字も多く見られた。これらは，いわゆる「ファンタジー」と言われるジャンルの漫画に多用されている。人名や地名など固有名詞の当て字も多く，ここに挙げる用例も固有名詞の性質が強いものもあるが，生産的で特徴的であるため，特記しておきたい。ファンタジー漫画とは，魔術など空想世界を描いた作品を指す。現実世界ではないため，個別的な設定が多く見られる。こうした設定を表現するために，

当て字が用いられているようだ。なお，4例目の「其はただ･･･」は作品中で用いられる呪文で，実在の語ではない。

上記の用法をまとめると，まず，口語の読みや英略語の読みでは，口語的な発音が読みに示され，語に標準語形や辞書形，一般的な表記が示されていた。これらは，話し言葉の発音と書き言葉が乖離している場合に，語の読みと書き言葉の語形を一致させて示す用法であると考えられる。一方，代名詞や言い換え表現では，当て字により意味が補足ないし拡充され，明確になっているといえる。さらに，ファンタジー漫画においては個別的な用法が見られた。これらにおいては，意味の明確化の用法が強められ，いわば物語の「世界観」を表すような，語の定義付け，意味の固定化ともいえる表現がなされていると考えられた。

3．2　資料間の比較

各種の雑誌における，当て字の生起頻度について，表1にまとめ，延べおよび異なりの出現数を示した。調査対象の雑誌には，月刊，週刊，隔週刊が含まれており，総数では比較がしにくいため，調査した冊数で異なり数を除した「平均度数」も示した。(表中の「冊数」は，調査した冊数を意味する。)

表1．各雑誌における出現数

雑誌種	冊数	異なり数	延べ数	平均度数
少年誌	24	613	1,188	25.5
青年誌	12	240	314	20.0
少女誌	18	139	221	7.7
女性誌	9	34	38	3.8

表1によると，雑誌種によって，当て字が用いられる頻度が異なることが読み取れる。少年誌は対象の2誌とも週刊で，調査冊数が他より多いこともあるが，異なり，延べとも当て字の頻度が圧倒的に高い。平均度数で見ても，最も少ない女性誌に比して，少年誌では7倍ほどの当て字が用いられている。少年誌に次いで，青年誌で当て字の頻度が高く，一方，少女・女性向けの雑誌では頻度が少ない。少女・女性誌において，当て字の頻度が少ないことについては，掲載される漫画のジャンルが影響していると考えられる。前項で述べたように，スポーツ用語やファンタジー漫画で当て字が多く用いられている。少女・女性誌には，ファンタジー漫画，スポーツ漫画が少なく，当て字の生起が少ない傾向となるのではないかと推測される。

4．まとめ

本稿では，当て字の現代における用法を，漫画を通じて整理することを試みた。資料から，主に以下の7種の用いられ方があることがわかった。

① 口語の読みを示す
② 外来語の読みを示す
③ 英語の略表記の読みを示す
④ スポーツ用語
⑤ 代名詞
⑥ 言い換え表現
⑦ 作品固有の表現

用法を整理し，いくつかに分類できたものの，今後の課題も多く残されている。まず，分類の妥当性が挙げられる。現段階では，分類に重複があり，例えば，スポーツ用語の多くが，英語の読みや略語の読みとなっているなどが生じている。下位分類を設けて分類の階層化を考えるなど，より系統だった整理が必要だと考えている。分類の重複があるため，計量的な分析が今回できず，この点も今後の課題としたい。

さらに，今回の分類は漫画に基づいたものであるが，漫画だけに限られる，特徴的な用法を扱っているのかについても考える必要がある。ライトノベルやファッション雑誌などにも多く当て字が用いられており，同様の調査を行うことで，当て字の用法の全体像や，資料に応じた個別的な性質など，より明確となるだろう。

資料性について付け加えると，今回のように期間を限定した調査では，対象となる漫画が固定されることになる。当て字の用い方には，作者や物語による偏りがあるため，資料を拡充することも必要である。

加えて，今回の資料では，人名，地名を除外するという固有名詞の取り扱いをしたが，どのようなものまで含め，あるいは除外するかについては改めて明確な基準を考える必要がある。より多くの資料に基づいて整理していくことを考えている。

本稿での調査は探索的な研究であり，当て字によってもたらされる効果などの詳細な検討ができなかった。この点に関しては，印象評価を求めるような調査を実施することも考えたい。現代における当て字の用法やその意味するところなど，この稿を踏まえて，引き続き検討していきたい。

参考文献

[1] 笹原宏之，“当て字・当て読み概説，”笹原宏之編，当て字・当て読み漢字表現辞典，pp.892-901，三省堂，2010.

[2] 笹原宏之編，当て字・当て読み漢字表現辞典，三省堂，2010.

[3] 安斎あかね，“現代漫画の文字表現：ルビの効用，”学習院大学言語共同研究所紀要，9，pp.125-136，1986.